

はじめに

「ばたんくた はぬたや いさ いらぬん」(腹いっぱい 食べなかったら 医者 いら
ない) 与那国語で腹八分目にしておけば健康でいられるという養生を勧めることわざがあ
ります。日ごろの食生活、特に腹八分目を心がけ、肥満予防に努めることは健康の維持増進
に繋がります。

日本で一番肥満の多い沖縄県、中でも八重山地区、与那国町においては県内上位の肥満率
である実態があります。先人たちが健康で長寿であったのは、からだを動かしよく働き、魚
や野菜(野草)をよく噛んで食べ、肥満も少なかったからだと考えられます。

現代においては、日常的に車に乗り、肉体労働は機械化が進み、身体活動量が減っていま
す。食生活では、食の欧風化が進み、高脂肪食品の摂取が増えることにより、肥満の増加に
歯止めがかかりません。今一度、先人たちの知恵を受け継ぎ、生活習慣を見直す時が来てい
るのかもしれませんが。

与那国町では、平成30年に食育推進計画を策定し、各団体取り組みを進めて参りました。
令和4年度には意識調査を実施し評価を行いました。解決に近づいたものもありますが、依
然として肥満や多量飲酒などは課題として残っています。食生活の乱れ、運動不足、ストレ
スなどさまざまな要因がもととなり、働き盛り世代での脳血管疾患や心疾患といった大き
な病気により介護に繋がるケースが少なくありません。幼少期から生涯の健康に繋げる食
育を行う必要を感じずにはられません。

さらに、食育は食文化継承や地産地消、食糧自給率、食品の安心・安全(食品衛生)など
多分野に広がりをもちます。世界的な視点をもてば、地球環境においても食生活の影響があ
るものも少なくありません。日本最西端の小さな町での暮らしの中でも、SDGsの視点
を持ち、世界の人々へ思いをはせて、食べ物を大切に作る、食べ物に感謝するという、たと
えそれが個人の小さな取組であっても、勧めていくことが大切だと感じています。

皆様と生涯を通じた心身の健康や持続可能な食を支える食育について取り組んでいくた
めの計画書が「与那国町食育推進計画～ぶーるしまんすやーブラン～(第二次)」です。

今後、住民の皆様、関係機関・団体の皆様とちからを合わせて取り組んで参りますので、
引き続きご協力とご支援をお願いいたします。

結びに、本計画の策定にあたり貴重なご意見を賜りました「与那国町食育推進会議」の皆
様、パブリックコメントや意識調査にご協力くださいました住民の皆様をはじめ、全ての関
係者の皆様に心から感謝申し上げます。

令和6年3月
与那国町長 糸数健一

<目次>

第1章	はじめに	
1	策定の趣旨	1
2	位置づけ	1
3	計画期間	2
4	食育推進のネットワーク概念図	3
5	計画の策定	3
第2章	食を取り巻く状況・達成状況	
1	前プランの主な取り組み状況	5
2	私たちの現状	9
3	食を取り巻く状況と新プランにおける取組の観点	19
第3章	スローガン・目指す姿と施策の展開	
1	スローガンと目指す姿	20
2	目指す姿に向けた具体的な取組	21
	「よ」 よく動き良く食べる	21
	「な」 ながく健やかに	24
	「く」 暮らしの中に知恵と工夫	27
	「に」 にぎやかに共に食べよう島の味	30
3	国と県との照応表	34
第4章	推進体制と進行管理	
1	推進体制	35
2	進行管理	35
3	プランの普及啓発	35
4	策定の経過	35
5	与那国町食育推進会議委員名簿	36
	参考資料	37

第1章 はじめに

1 策定の趣旨

本町では平成30年3月に「与那国町食育推進計画～ぶーるし まんすやー プラン～」を策定しました。関係機関・団体とともに、目指す姿を共有し、スローガンを掲げ取り組んで参りました。

計画期間中には、新型コロナウイルスが猛威をふるい、コロナ禍においては生活スタイルが大きく変わったこともありました。リモートでの労働や学業が増え、消費活動ではネット通販の利用の増加が見られました。また、食生活においては全国的にはテイクアウトの利用や宅配、自宅での自炊増加の傾向が見られました。結果としてデジタル社会が進むきっかけとなりました。今後、一層進むと思われるデジタル社会において、情報の入手や食材の入手についてはデジタル化がすすみます。食べること自体は生命を維持し、健康増進のための食生活はアナログ活動ではありますが、デジタル社会を基盤として進められるよう横断的な視点を忘れてはいけません。さらに、食は社会、文化、環境にも影響力があり、持続可能な食生活を目指し、SDGsの視点を持ちながらできることから取り組みを始めていくことが大切です。

また、これまでからも健康長寿を目指した取り組みを行って参りましたが、今後、より一層高齢社会が進むにあたり、人生100年時代を見据えた取り組み、フレイル予防、介護予防に関しても一層力を入れ、長く現役で健康に暮らせるよう、幼少期から生涯にわたる食育を進めて参ります。

与那国町では、住民への意識調査の結果や社会状況の変化等を踏まえ、前プランを見直し、「与那国町食育推進計画～ぶーるし まんすやー プラン～（第二次）」を策定し、今後6年間この新プランに基づきさらに食育の総合的・計画的推進に努めていきます。

2 位置づけ

本計画は、食育基本法第18条に規定される市町村食育推進計画に位置付けられるものです。

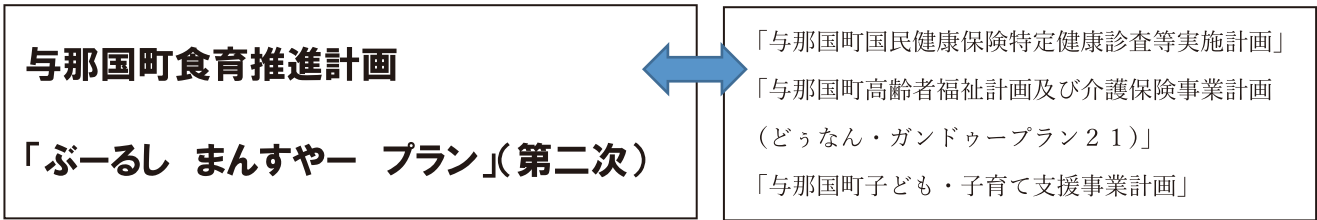
本町の行政計画においては、「与那国町第5次総合計画」を最上位計画とし、その基本目標「医療・福祉 生きがいと笑顔のある健康な与那国」の実現に向けた実施計画に位置付けられます。

また、健康増進法に基づく与那国町健康増進計画「どうなん健康づくり21」の栄養・食生活分野の取組を具体的に進める計画でもあります。

さらに、「与那国町国民健康保険特定健康診査等実施計画」「与那国町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画（どうなん・ガンドゥープラン21）」「与那国町子ども・子育て支援事業計画」など栄養・食生活にも関連を持つ計画との整合性を図り策定し、推進にあたっては各施策との連携を図りつつ推進するものとします。

与那国町第5次総合計画令和5年（2023）～令和17年（2035）
第2章 医療・福祉「生きがいと笑顔のある健康な与那国」

どうなん健康づくり21（第3次）令和7年度（2025）～令和18年度（2036）（12年間）
栄養・食生活

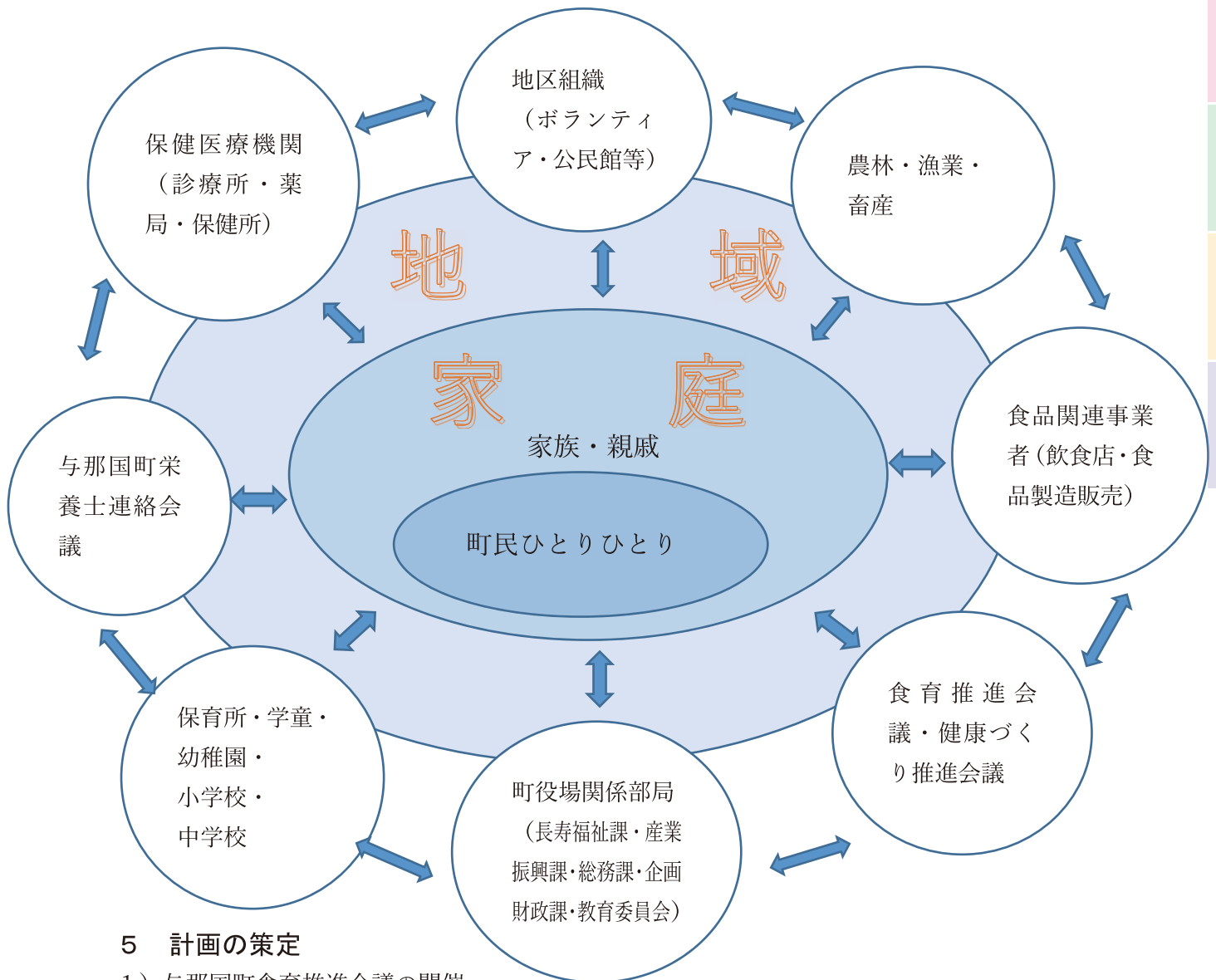


3 計画期間

計画期間は令和6年度（2024）～令和11年度（2029）の6年間とします。

西暦	2024	2025	2026	2027	2028	2029
令和	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
国	第4次 令和3～7年 (5年間)					
県	第4次 令和5～8年 (4年間)					
町	第2次 令和6～11年 (6年間)					
町健康づくり	第3次 令和7～18年 (12年間)			※令和12年に中間評価を行う		

4 食育推進のネットワーク概念図



5 計画の策定

1) 与那国町食育推進会議の開催

与那国町食育推進会議は本計画を推進するために設置されたもので、一次計画の進捗管理を毎年行い、二次計画の策定にあたり、関係機関・団体の皆様から多くの意見をいただきました。

2) 与那国町食育に関する意識調査の実施

前プランの数値目標の達成状況や住民の食生活の状況等を把握し、今後の施策展開を検討するための基礎資料とするため、住民対象に「令和4年度与那国町食育に関する意識調査」を実施しました。調査結果は、役場ホームページに掲載しています。

詳しくは

令和4年度与那国町食育に関する意識調査【与那国町】

<https://www.town.yonaguni.okinawa.jp/docs/2023012400024>



3) パブリックコメントの実施

募集期間 令和6年1月15日～令和6年2月9日

住民意見数 21件

【意見内訳】

分類	件数
①計画全般に関すること	3件
②数値目標に関すること	1件
③施策に関すること	15件
④その他	2件
合計	21件

ご意見につきましては、与那国町食育推進会議で報告するとともに、「与那国町食育推進計画～ぶーるしまんすやープラン～（第二次）」を策定するうえで参考にさせていただきました。

詳しくは

与那国町食育推進計画（第二次）パブリックコメント【与那国町】

<https://www.town.yonaguni.okinawa.jp/docs/2024030100019/>



第2章 食を取り巻く状況・達成状況

1 前プランの主な取り組み状況

前プランは「この島で楽しく食べよう ぶーるし（一緒に） まんすやー（おいしいね） どうなんちま」をスローガンに掲げ、この島に生まれ育った者、この島を愛して移り住んだ者、誰もがこの島でおいしく楽しい食生活を送りながら、健康長寿の島を目指して取り組んで参りました。

【前プランの概要】

【計画期間】 平成30年度～令和5年度

【スローガン】 「この島で楽しく食べよう

ぶーるし（一緒に） まんすやー（おいしいね） どうなんちま」

この島に生まれ育った者、この島を愛して移り住んだ者、誰もがこの島で美味しく楽しい食生活を送りながら、健康長寿の島を目指します。

【目指す姿】

- よ** よく動き良く食べる・・・身体活動と食事のバランス（知識の普及⇒行動変容）
- な** 長く健やかに・・・ライフステージに合わせた食育で健康長寿
- く** くらしの中に知恵と工夫・・・食品の安全安心、食品ロス削減
- に** にぎやかに共に食べよう島の味・・・共食、食文化継承、地産地消

●前プランの達成状況

「令和4年度与那国町食育に関する意識調査」等の結果を踏まえ、前プランの数値目標の評価を行いました。達成度については以下のとおりです。

評価区分	
A	目標に達したもの
B	目標に達していないが目標に近づいたもの
C	目標から遠ざかったもの
D	評価が難しいもの

出発値：平成28年度与那国町食育に関する意識調査

現状値：令和4年度与那国町食育に関する意識調査

※他に、国保データベース、特定給食施設栄養定期報告書、地域包括支援センター事業報告の値を使用

よ よく動き良く食べる

健康の維持・増進には適度な身体活動とバランスの良い食事が大切です。

身体活動は積極的なスポーツ等の運動と、家事等の生活活動も含まれます。運動については、運動に関する関係機関・団体がスポーツを行う機会を提供し、運動する人を増やすよう取り組んできました。生活活動については、保健指導等の機会や健康イベントを通して、家事や歩行といった軽い身体活動を増やすことも効果があることを伝えてきました。定期的な運動習慣がある者や週に複数回の体重計測を行う者は増加しています。

肥満者の割合（中学生・成人）や朝食を食べる割合、主食・主菜・副菜を揃える割合など改善傾向がみられるものもありますが、目標には届いていません。夕食後の飲食習慣（中学生・成人）や肥満者の割合（小学生・成人）は悪化しており、ターゲットを絞った取り組みが必要です。さらに、多量飲酒者の割合では前プランでの調査と調査方法が変わったため直接の比較評価は行えませんが、今回の調査結果では飲酒習慣のあるもののうち28.8%が多量飲酒者です。飲酒問題は以前から本町の大きな課題の一つとなっており、次期プランにおいても取り組みの強化が必要です。

指標		出発値	目標値	現状値	評価
肥満者の割合	小学生	10.4	8.0	11.3	C
	中学生	15.9	12.0	14.6	B
	成人	50.2	40.0	50.9	C
朝食を食べる割合	成人	68.0	80.0	68.8	B
夕食後の飲食習慣 (ほとんど毎日)	小学5年生	31.3	20.0	0.0	A
	中学2年生	15.4	10.0	20.0	C
	成人	17.6	10.0	26.7	C
主食・主菜・副菜が1日に2回以上そろっている頻度(ほとんど毎日)		36.3	40.0	36.8	B
ゆっくりよく噛んで食べる(実践している・時々している)		51.8	55.0	66.6	A
多量飲酒者の割合(飲酒習慣のある者のうち)		21.0	15.0	28.8 ※調査方法を変更したため	D
定期的な運動習慣		42.4	50.0	56.3	A
週に複数回の体重計測		48.9	55.0	59.7	A
介護予防体操「やーるー」参加者数		27年度 97名 28年度 197名	計画期間累計 600名	187 ※コロナのため3年間休止	D
食生活改善推進員事業への参加者数		27年度 86名 28年度 197名	計画期間累計 600名	712名	A

な 長く健やかに

健康で自立した、自分らしい暮らしができる健康寿命が延びることが理想です。幼い頃からの健康教育により将来への健康の土台作りが始まっています。

このため、幼少期から食への興味を持ち、自ら健康的な食生活が営めるようにしていくことが大切です。前計画では子どものみならず各ライフステージに応じた取り組みを関係機関・団体が行ってきました。子どもたちが楽しく食べ、食への興味の高まりが確認されましたが、大人の食育への関心度が低下しています。子ども向けの取り組みは継続しつつ、子どもを通じての大人へのアプローチや大人向けの取り組みをしていく必要があります。

指標		出発値	目標値	現状値	評価
5・6歳児の食事の様子 (楽しく食べている・まあまあ楽しく食べている)		87.8	95.0	91.0	B
食への興味(とても興味が ある・少し興味がある)	小学5年生	68.8	75.0	76.5	A
	中学2年生	61.6	70.0	73.4	A
食育への関心度(関心がある・どちらかといえば関心がある)		75.3	90.0	73.6	C

く 暮らしの中に知恵と工夫

食品の安全性についての基礎的な知識を持ち、判断ができている者の割合が増えている理由としてインターネット等のICTが発展し、食に関する情報が入手しやすくなってきていることが挙げられます。さまざまな情報が溢れている中で、住民のヘルスリテラシー(正しい情報の選択や判断ができること)を高めることが重要です。一方で、食品ロス削減のために取り組んでいることは無い者の割合が増えています。SDGsの視点からも、地球規模で考えた時に食品ロスは環境負荷に大きな影響があります。広い視野で食品を大切にすること、無駄のない食生活を送ることが重要です。

指標		出発値	目標値	現状値	評価
食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断できている者(十分できている・ある程度できている)		62.8	65.0	67.9	A
食品ロス削減のために取り組んでいること(取り組んでいることはない)		5.9	3.0	9.1	C

に にぎやかに共に食べよう島の味

共食頻度が週に3日以下の割合は朝食において増加してしまったものの、夕食は改善傾向にあります。ライフスタイルの変化を勘案すれば、1日のうち1回でも共食できていれば良いと考えてもよいのかもしれませんが。

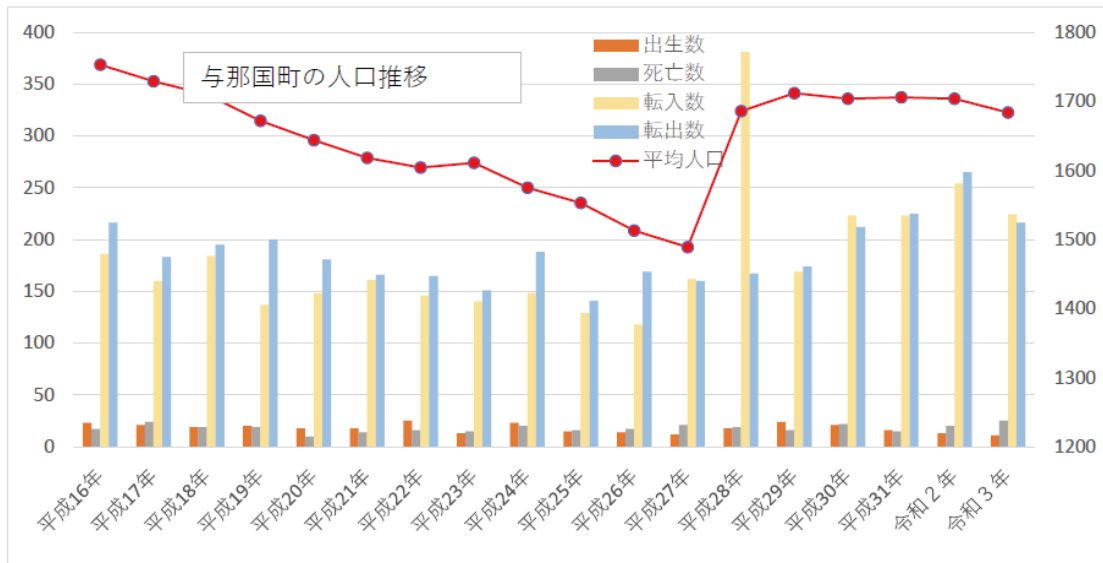
郷土料理等を受け継いでいる者の割合、地産地消の知識、与那国町産の食品の摂取状況、いずれも目標は達成できなかったものの改善傾向にあります。前プラン策定時から新規に始まった「15の春食育教室」についても、地域ボランティアから子どもたちへ食文化の継承を目的としています。こういった取り組みもあり、概ね、島の食文化についての目標は改善傾向であると考えられますが、これらの取り組みは継続していることが重要であることから、引き続き目標に掲げ取り組んで参ります。

指標		出発値	目標値	現状値	評価
家族と共食する頻度（週に3日以下の割合）	朝食	30.7	20.0	36.6	C
	夕食	16.0	10.0	12.7	B
郷土料理等を次世代へ受け継いでいるか（受け継いでいる割合）		50.9	60.0	58.0	B
地産地消の知識（言葉と意味、言葉だけを合わせた言葉は知っている割合）		74.4	80.0	78.2	B
与那国町産食品の摂取状況（だいたいいつも食べている）		51.6	60.0	57.6	B

2 私たちの現状

1) 人口、世帯数

平成27年までは年々減少していた人口ですが、陸上自衛隊与那国駐屯地ができたことに伴い、自衛隊及びその家族の転入により人口が増えました。平成28年度以降は1700人弱で安定推移しています。自衛隊のうち、家族と転入されてきた方は幼い子どものいる、若い子育て世代が多く、一方で単身の場合は20歳代～40歳代の男性の方が多いです。



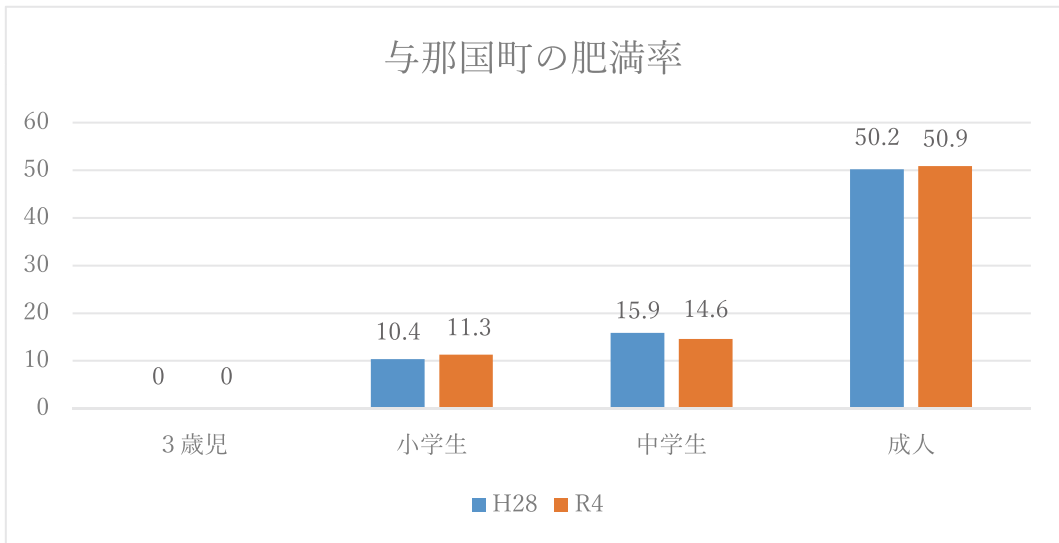
《データソース》与那国町人口動態より

2) 肥満と食生活

肥満に関しては、前回調査（H28）から比較すると、小学生は0.9ポイントの増加、中学生は1.3ポイントの減少となっていますが、いずれも母数が少ないことから、大きな変化は無いと考えられます。成人については0.7ポイントの増加となっており、依然として高い割合なので、今後も継続して肥満対策の取組が必要です。

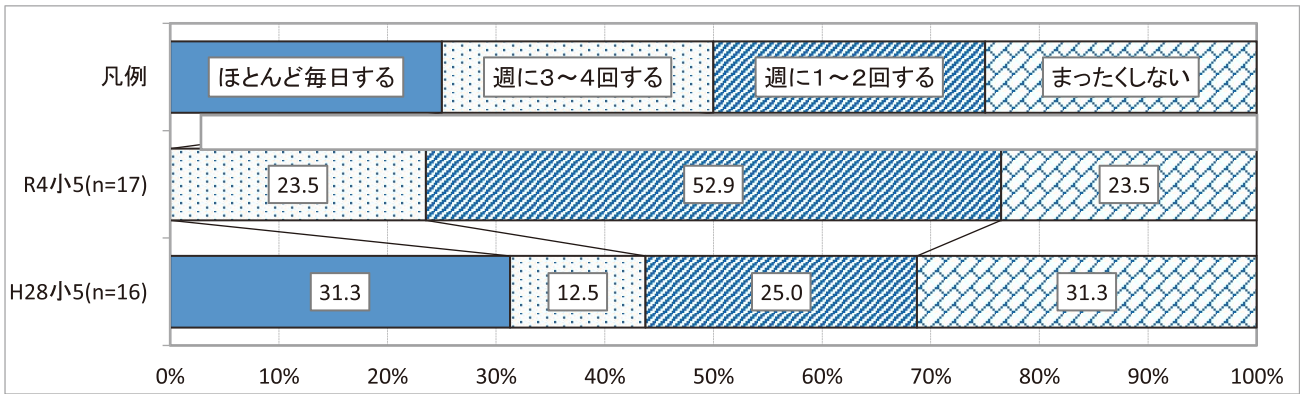
また、前回調査と同様に、3歳児、小学生、中学生、成人と年齢を重ねるごとに肥満率が上がる傾向があるため、子どもの頃からの肥満予防対策が重要であることに変わりはありません。【図1】

【図1 与那国町の肥満率】

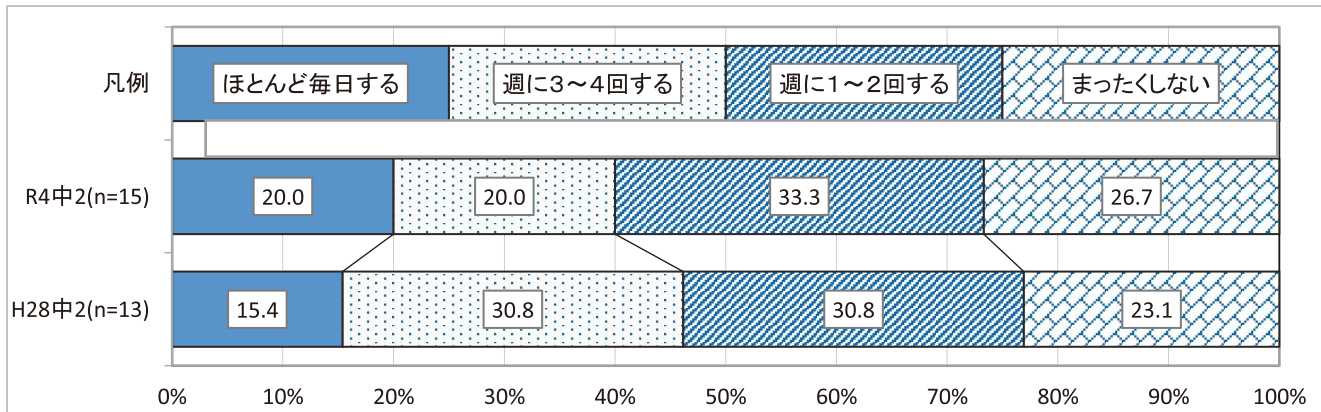


夕食後の飲食習慣では、小学5年生では改善が見られましたが、中学2年生及び成人において悪化しています。時間栄養学の観点からすると、同じ量の食事であっても食べる時間によって栄養の代謝が変わることが分かっています。夜の飲食は肥満に繋がりがやすいので、肥満予防に向けては、夕食後の飲食習慣を減らす取り組みが必要となります。【図2】

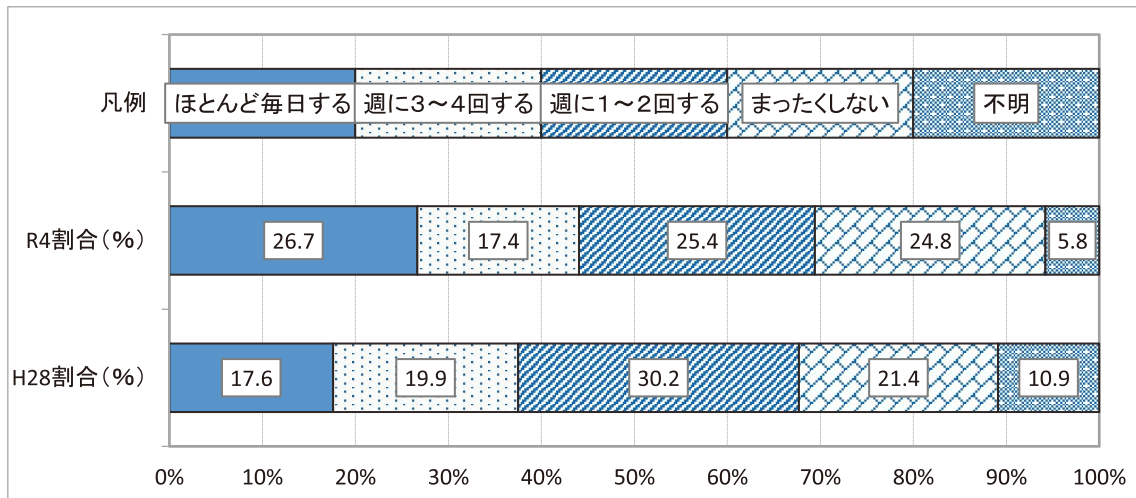
【図2-1 夕食後の飲食習慣 小学5年生】



【図2-2 夕食後の飲食習慣 中学2年生】



【図2-3 夕食後の飲食習慣 成人】

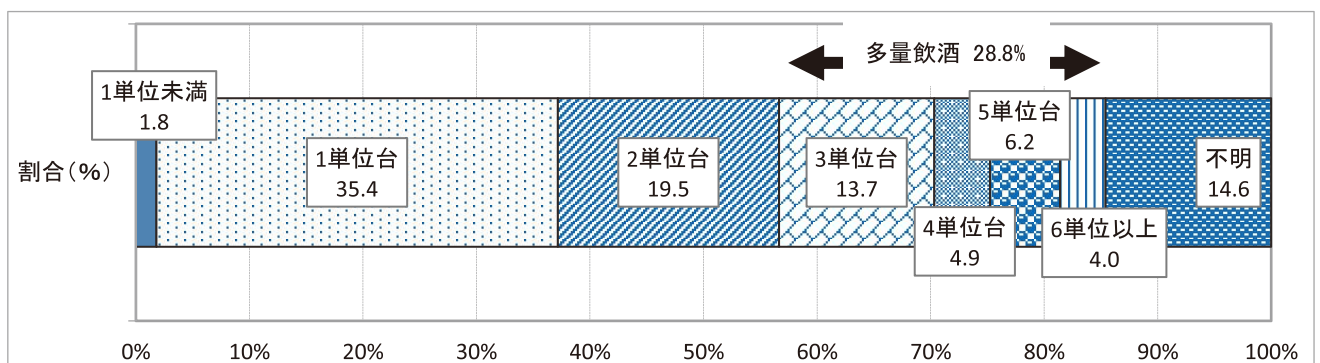


飲酒習慣については、飲酒習慣のある者のうち、28.8%が多量飲酒にあたります。日ごろの飲酒に加え、与那国町ならではの事情として、伝統行事や法事、お祝い等の際には飲酒量が増える機会となります。行事の在り方についても、住民全体で見直す必要があるのかもしれない。

また、「大人からお酒をすすめられたことがある」者が小学5年生 11.8%、中学2年生 26.7%いることから、大人の好ましくない行いが明らかとなっています。適正飲酒や飲酒ルールの徹底に向けては、成人に対して強化していく必要があります。【図3】【図4】

【図3 飲酒量】

飲酒習慣のある者に聞いた1回あたりに飲む平均的な量と多量飲酒者（3単位以上）の割合




食のミニ情報①アルコールの適量は？

厚生省によると「節度ある適度な飲酒」として、1日平均純アルコールで約20g程度であるとされており、それが「1単位」となります。

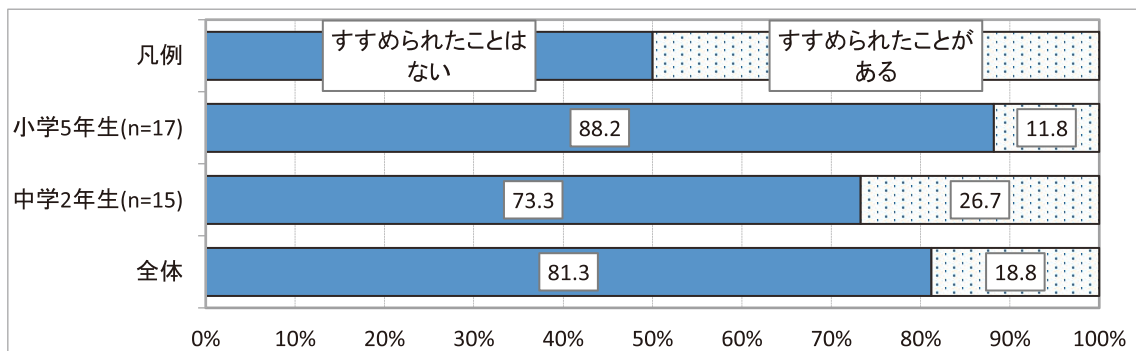
アルコール1単位

ビール	日本酒	ウイスキー	ワイン	チューハイ	焼酎
5%	15%	43%	12%	7%	25%
500ml	180ml	60ml	200ml	350ml	100ml



1日に純アルコール量60g以上(3単位以上)摂取した場合を多量飲酒と言います。多量飲酒習慣により肝障害や高血圧、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病をひき起こし、進行させる危険性が高くなります。

【図4 大人にお酒をすすめられたことがあるか】



高血圧予防には肥満の解消、適正飲酒に並んで減塩を進めることが大切です。「令和3年度沖縄県県民健康・栄養調査」によると、本県の食塩摂取量は全国と比較して少ないですが、目標量（日本人の食事摂取基準2020）を超えている者の割合は男女ともに約6割です。本町の意識調査においては「減塩を意識した食事」をしている者は約6割となっており、少ない塩分でも美味しく食べられる食べ方の提案や、薄味が美味しいと感じる嗜好に育てる食育等、長期に渡り減塩に取り組む必要があります。【参考1】【図5】

【参考1：令和3年度沖縄県県民健康・栄養調査 食塩摂取の状況】

図 食塩摂取量の平均値の年次推移(20歳以上)(平成10年,15年,18年,23年,28年,令和3年)

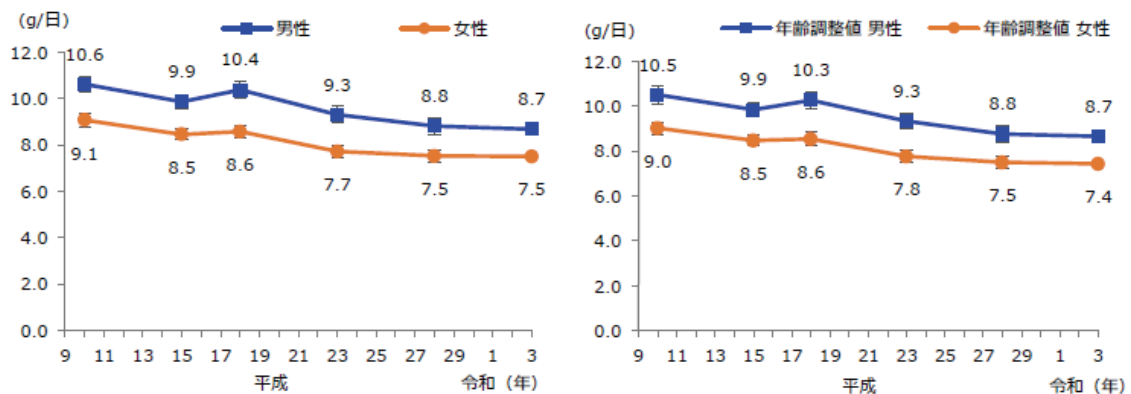
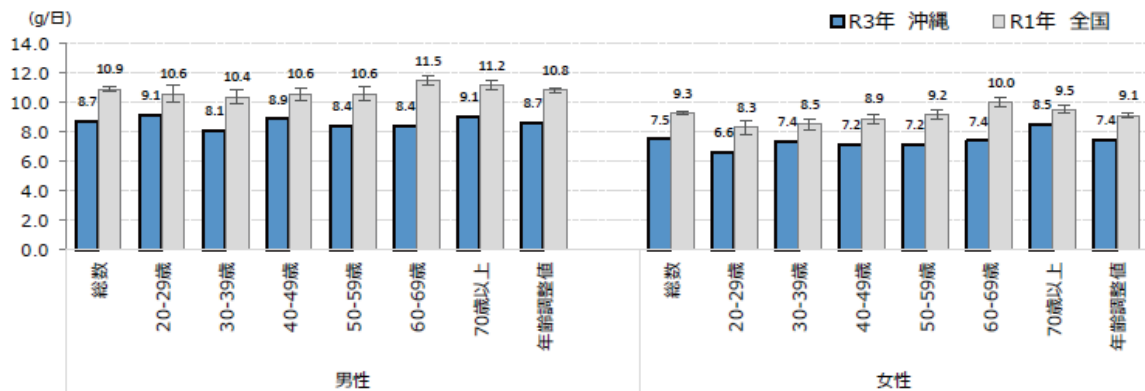


図 食塩摂取量の全国との比較(沖縄県:令和3年,全国:令和元年)

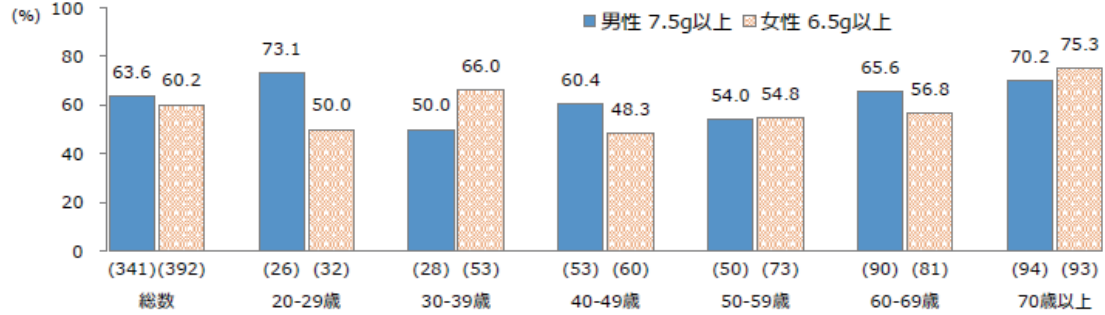


年齢調整値(20歳以上):平成22年国勢調査男女計人口を基準に年齢調整した値。

誤差線:±1.96×標準誤差。標準誤差は、標準偏差と調査人数から算出。全国値:令和元年国民健康・栄養調査。

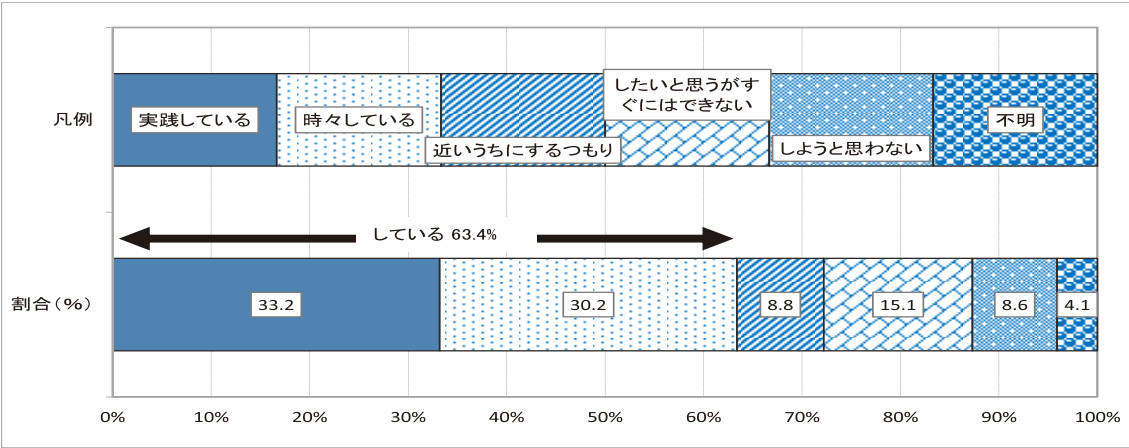
1日あたりの食塩摂取量が目標量（男性 7.5g、女性 6.5g）※を超えている人の割合は、男女ともに約6割である。

図 食塩摂取量が目標量(男性 7.5g, 女性 6.5g)以上の者の割合(20歳以上、性年齢階級別)



*食塩摂取量が目標量以上の者の割合：BDHQ(nutr)の個人の食塩摂取量にH28年DR平均値とBDHQ平均値の比(男性0.81、女性0.84)をかけたものを区分して算出した推定値。

【図5 減塩を意識した食事】



《データソース》

【図1】令和4年度乳幼児健康診査報告書（3歳児）

令和4年度特定給食施設栄養定期報告書（小学生・中学生）

令和4年度特定健康診査結果（40～74歳国保加入者）より

【図2】～【図5】令和4年度与那国町食育に関する意識調査より



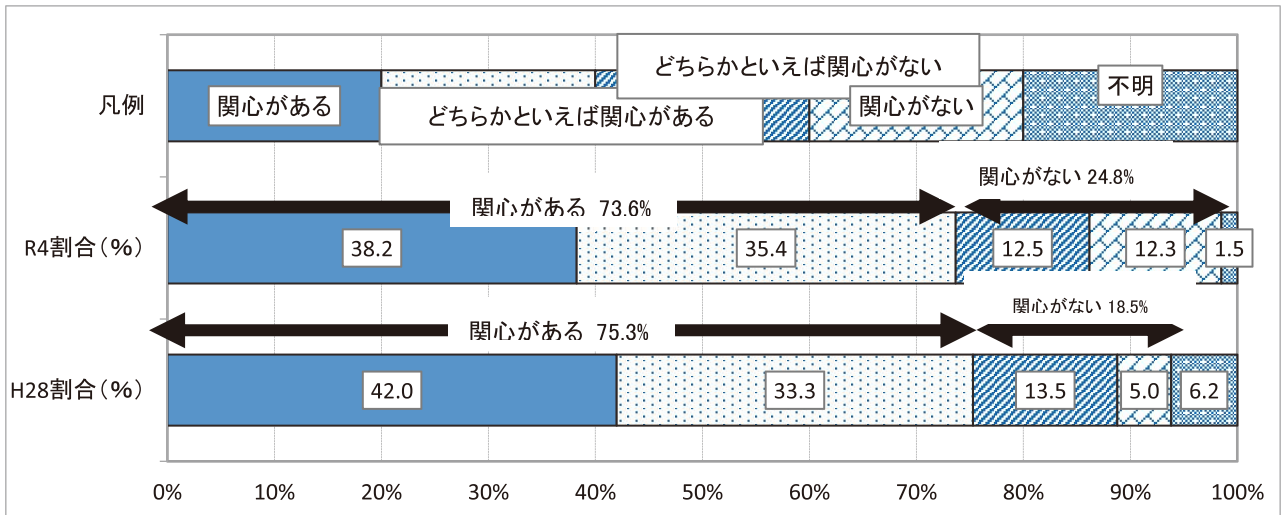
詳しくは 沖縄県のアルコール対策【沖縄県】
alc.okinawa.jp/alcohol

詳しくは スマートライフプロジェクト【厚生労働省】
https://www.smartlife.mhlw.go.jp/

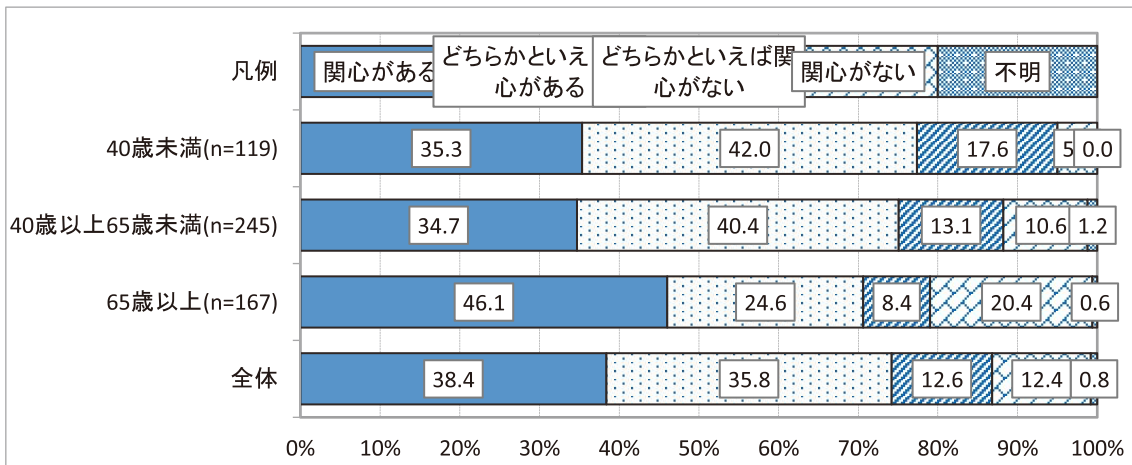
3) 食育と環境への意識

食育への関心度は、前回調査（H28）から比較すると「関心がある」が1.7ポイント減少しています。県及び国と比較すると本町の値は低くなっています。特に、65歳以上の年齢区分で関心がない者の割合が多くなっており、高齢者に対して食育への関心を高める働きかけが必要です。【図6-1】【図6-2】【参考2】

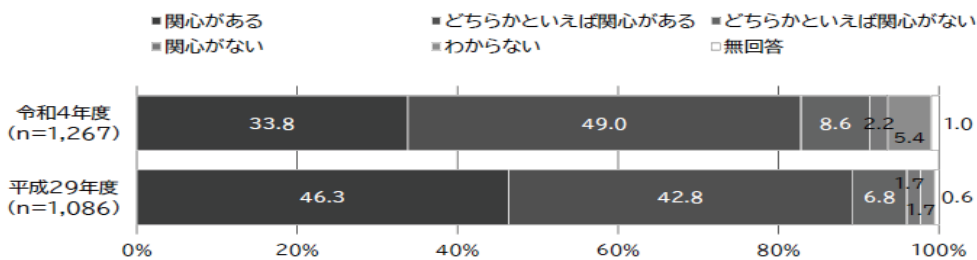
【図6-1 食育への関心度】



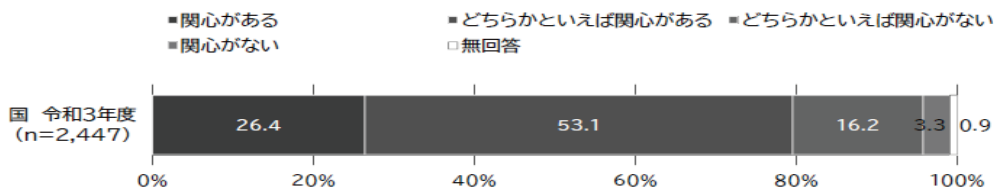
【図6-2 食育への関心度 年齢3区分】



【参考2：令和4年度食育に関する県民意識調査 食育への関心度】

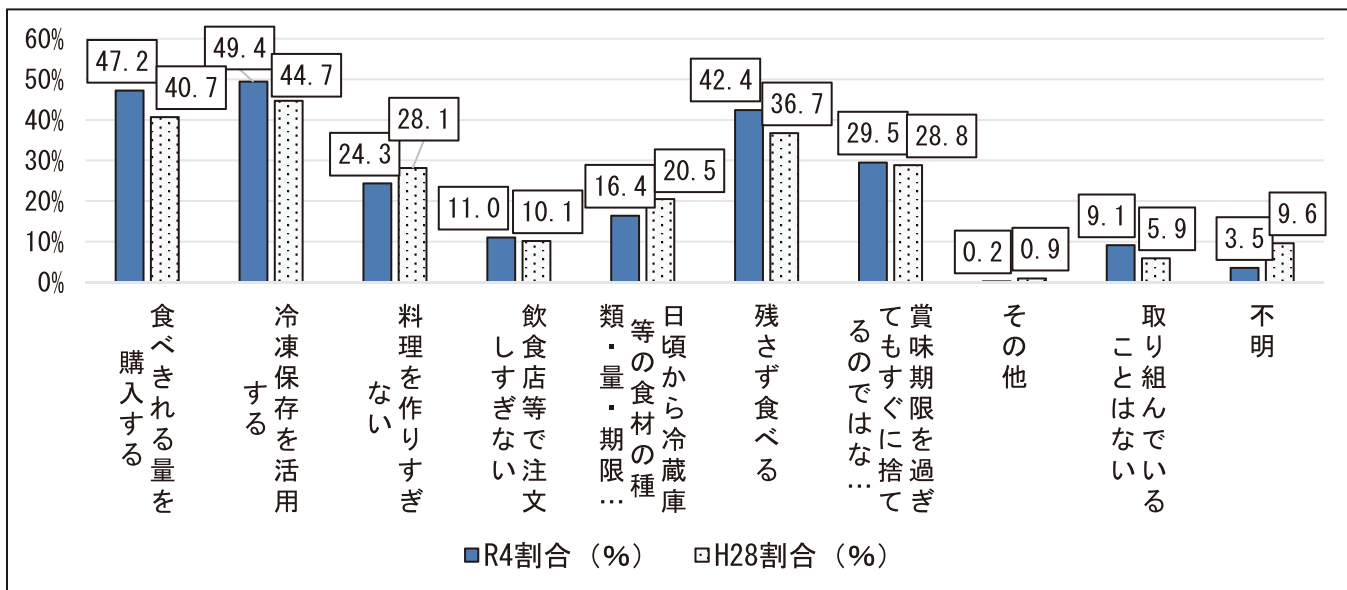


<参考>国 令和3年度食育に関する意識調査



また、食生活と環境には深い関連があります。食品ロス削減への取組は、「取り組んでいない」者を減らす目標でしたが、3.2ポイント増加しています。【図7】

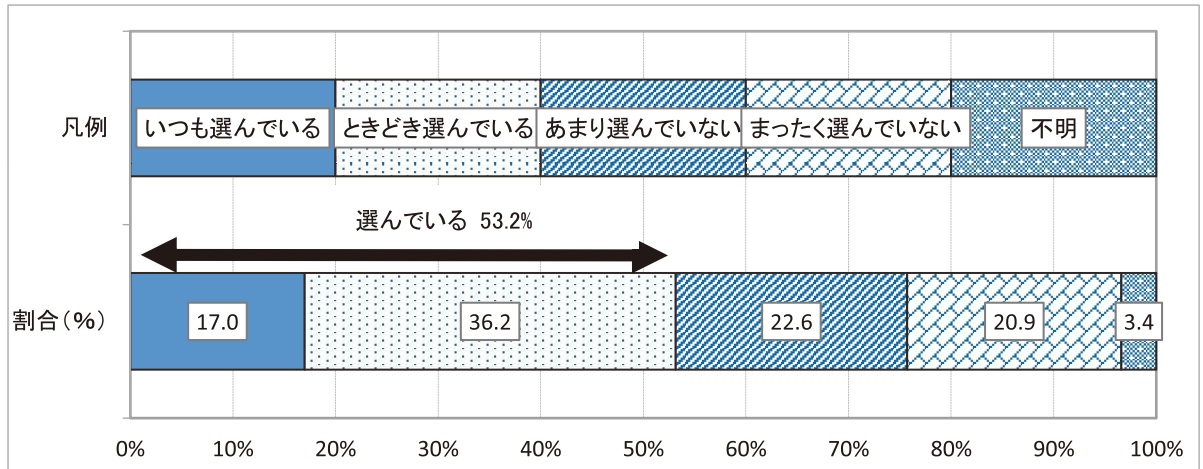
【図7 食品ロス削減への取組】



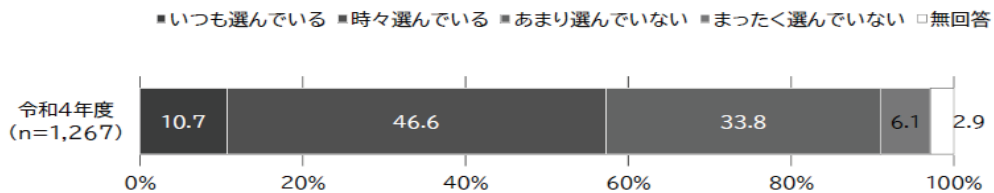
さらに今回、新しい項目として「環境に配慮した農林水産物・食品の選択」「産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選択」「食生活が環境負荷に影響があることを理解し、意識した生活への取組」を加えています。「環境に配慮した農林水産物・食品の選択」は国や県と比較すると低くなっており、国とは10ポイント以上の差があります。加えて「産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選択」は国とは20ポイント以上の差があります。子どもの頃からの教育に加え、成人に対しても啓蒙活動が必要です。

【図8】【図9】【図10】【参考3】【参考4】

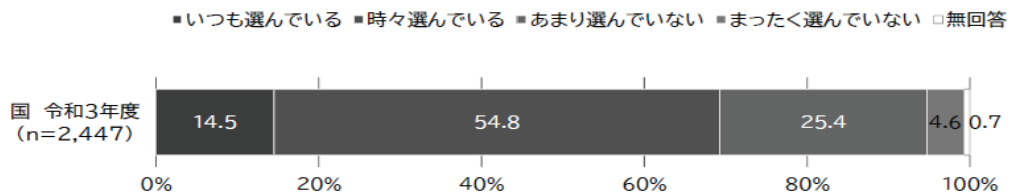
【図8 環境に配慮した農林水産物・食品の選択】



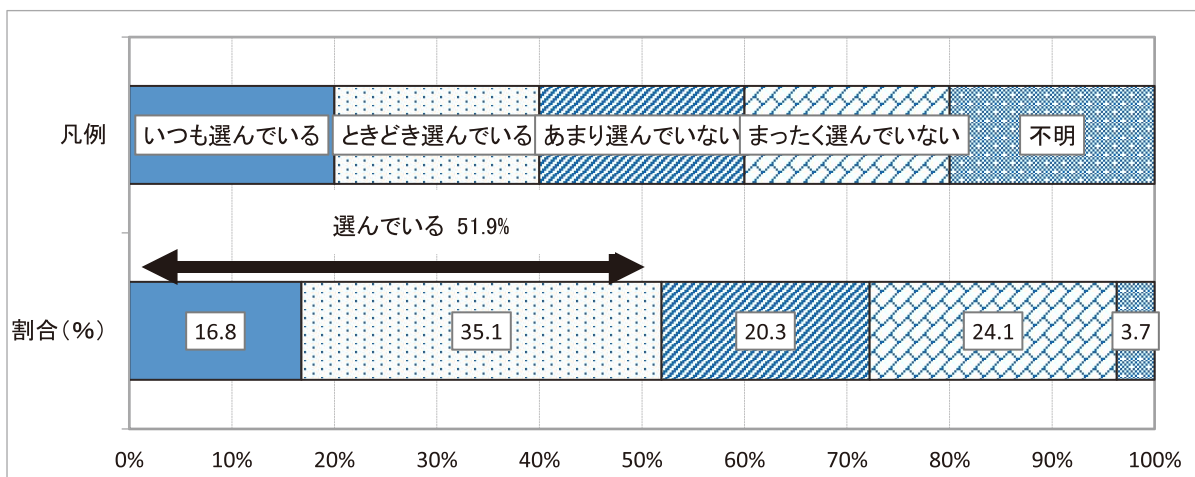
【参考3：令和4年度食育に関する県民意識調査 環境に配慮した農林水産物・食品の選択】



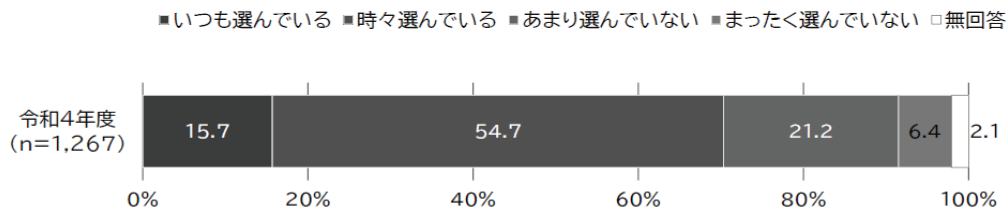
<参考>国 令和3年度食育に関する意識調査



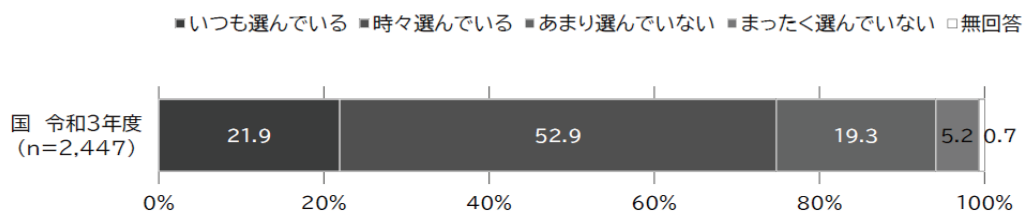
【図9 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選択】



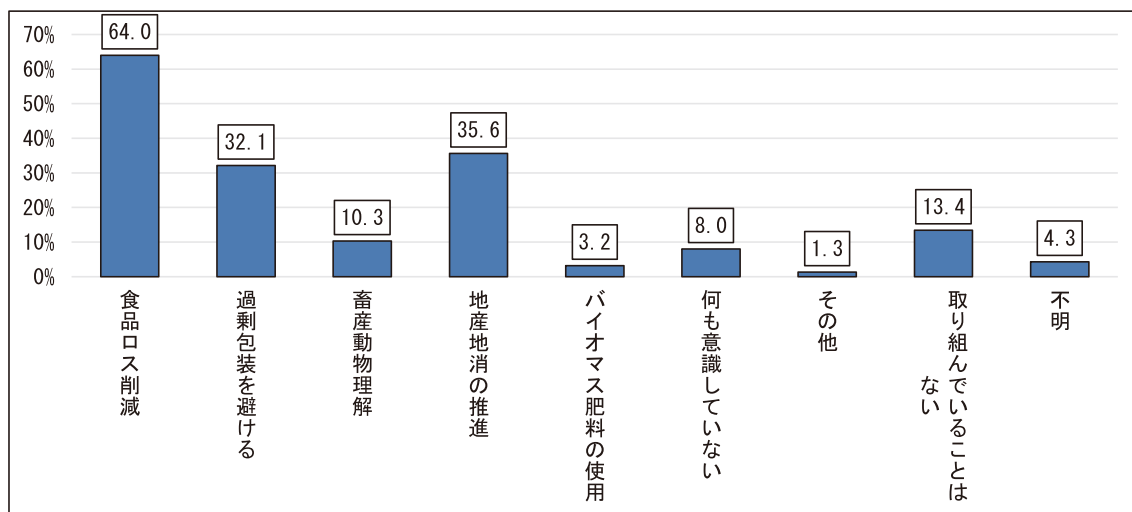
【参考4：令和4年度食育に関する県民意識調査 産地や生産者を意識した農林水産物・食品の選択】



<参考>国 令和3年度食育に関する意識調査



【図10 食生活が環境負荷に影響があることを理解し、意識した生活への取組】



《データソース》

【図6】～【図10】 令和4年度与那国町食育に関する意識調査より



3 食を取り巻く状況と新プランにおける取組の観点

<p>【残す課題と新たな課題】</p> <p>1) 前プランで悪化したもの又は依然として課題の残るもの 肥満の改善（夕食後の飲食習慣） 大量飲酒の者の割合 食育への関心度 食品ロス削減のために取り組んでいること</p> <p>2) 改善傾向にあるが継続すべき目標 朝食を食べる者の割合（成人） 主食・主菜・副菜を揃えて食べる割合 定期的な運動習慣</p> <p>3) 新しい目標 減塩を意識した食事 環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ</p>	
<p>【食に関わる状況の変化】</p> <p>人生100年時代を見据えたフレイル予防強化 デジタル社会に適応した食育 SDGsを支える食育 環境に配慮した食生活 災害への備え</p>	<p>【与那国の特色】</p> <p>各公民館の組織基盤があり地域コミュニティがしっかりしている 子どもを地域の宝とし子育てを支えあう風土 伝統行事や人付き合いにお酒と深く関わりがあり、多量飲酒の問題 暑い時期が長く、食品の保存性を高めるための揚げる調理が多い 野菜の摂取量が少ない（生産量・入荷量が少ない、価格が高い） 食生活の特徴から肥満を招きやすい 車社会で運動不足になりやすい</p>

【今後の取組の観点】

- ① 肥満の改善に向けて、時間栄養学を基とした食べ方（ゆっくりよく噛むことや食べる時間等）の観点を追加⇒**目指す姿「よ」に追加**
- ② 飲酒習慣を含めた働き盛りの生活習慣及び人生100年時代を見据えたフレイル予防の観点を追加⇒**目指す姿「な」に追加**
- ③ 食品ロス削減等、環境に配慮した食生活からSDGsを支える食育、防災の観点を追加⇒**目指す姿「く」に追加**
- ④ 食文化を継承しながらも伝統行事の在り方の見直しや地区組織の担う役割の観点を追加⇒**目指す姿「に」に追加**